

伊丹市文化財ボランティアの会 火曜会通信

第53号

発行日:平成24年5月1日

発行:伊丹市文化財ボランティアの会

発行所:伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

新体制始動 24年度定期総会開く

平成24年度定期総会が4月10日(火)開催された。会員総数67名のうち53名の出席により、過半数の出席であることから総会の成立を確認した。議事に入り、23年度の活動報告、決算報告、監査報告が行われ、拍手をもって承認した。引き続き24年度の活動計画案、予算案、新幹事選任、および一部会則の変更を承認、そのあと新役員、新入会員の自己紹介、定例報告を行なった。

池田会長をはじめとした下記の新体制で、24年度の活動を開始する。

会長	池田 利男
副会長	濱田 辰洋
〃	細川 勝海
会計	酒井 かづえ
〃 補佐	山田 美智子
幹事	山元 龍治 水曜班リーダー
〃	松田 孝雄 木曜班リーダー
〃	内田 囊 金曜班リーダー
〃	竹中 稔 土日曜班リーダー
〃	田中 實 事業
〃	瀧内 和之 事業
〃	安永 繁美 総務
〃	中山 千恵子 公民館推進委員
〃	富永 佳代 公民館公連協
顧問	坂根 俊彦
〃	服部 浩夫
監査	柴田 博

つぎの4名の方が幹事を退任された。

中川康、末松弘子、川上充、坪倉聖博、皆様どうもご苦労様でした。

24年新年度を迎えて会長 池田利男

養成講座第17期生7名の入会を迎えまして、本会員は総勢67名となります。今後、ますます火曜会の発展と会員皆様のご多幸とご健康をお喜び申しあげます。

今期は、副会長、会計、監査役、幹事共新たな方々により、なお一層、会の発展と内容の充実を図り、楽しく活動ができるようにと期待しています。

皆様も後期高齢者の方が多くなってまいりました。毎日を楽しく過ごすために「長寿の秘訣の五カ条」を提案します。

1. 一読 毎日一回、声を出して文章を読む。
2. 十笑 毎日十回、大声で腹から笑う。
3. 百呼 毎日百回、腹式呼吸をする。
4. 千字 毎日千字の文字を書く。
5. 万歩 毎日一万歩を歩く。

社会教育課 長野課長あいさつ

4月1日付で社会教育課長を拝命しました。

文化財ボランティアの皆様には昨年は伊丹ロマン事業、歴史ロマン体験学習等、さまざまな活動、事業でお世話になりました。

またこれからもお世話になりますので、昨年度同様よろしくお願ひします。

「いざ！有岡城」惣構え内を攻め歩こう

第17回文化財ボランティア養成講座

3月20日(火)春分の日、伊丹市社会教育課主催、第17回文化財ボランティア養成講座の市内史跡めぐりが行なわれた。1月末に始まった養成講座のしめくくりとして、受講生が直接、市民をガイドする晴れの舞台である

当日は天候に恵まれ、受講生7名のほか一般12名、会員17名が参加した。

今回は、酒造りで町人文化が繁栄する江戸時代以前、いくさに備えて砦、土塁を築き、堀、溝を掘って防御を固めた戦国時代の惣構えの遺構を巡った。

有岡城跡を出発して惣構えラインを反時計回りに歩き、途中で町屋域の説明を受けた。

主郭→北ノ口→さしの砦→堀→上臈塚砦→外構え→鶴塚砦→大坂道→大溝

受講生は落ちついて各所でのガイドをこなしていた。

北ノ口

北ノ口は惣構え北の虎口である。現在の北本1丁目、なかよしⅡ児童遊園地付近である。多田道、池田道へ通じるために設けたと考えられる。

一般に出入り口を設けることは防備上の弱点になる。しかし北ノ口あたりは地形が急で、惣構え側が外部より高いので、出入り口を設けても防備が容易であったと想像できる。



北ノ口のガイド

堀跡

宮ノ前3丁目地内の発掘調査で幅4m、深さ3m 底幅 1.5m の堀が東西方向に掘られているのが見つかった。この付近は当時、町家域であり、日常、堀は不要で無用の長物であるが、いくさに備えて築いていた。

その後、江戸期に町家区域が繁栄、拡張する過程で、堀は埋められたようである。

上臈塚砦

上臈塚砦は現在の墨染寺の前あたりにあった上臈塚古墳(4世紀後半築造の前方後円墳)の上に築かれた。落城後に砦の土盛りは周辺の堀を埋めるのに使用されたようで、現在は古墳、砦の面影は全くみられない。



上臈塚砦のガイド

墨染寺前

鶴塚砦

惣構えの南端の位置にあり、上臈塚砦と同様、古墳上に築いた砦である。塚の土盛りが現存して、薬師堂が祀られているが、私有地のため見学はできない。

惣構えラインを歩いてみると、惣構えの境界で現在でも微妙な段差があり、段差部に石積み擁壁を設けている場合が多い。もちろん当時のものではないが、惣構え当時の姿を偲ぶことができる。

受講生の皆さんどうもご苦労さまでした。

ぜひ当会に入会して、今後もボランティアとしてガイドを続けて下さい。(松田 記)

墨染寺のルーツを探訪

土日グループ屋外研修

墨染寺のルーツを探訪する為、3月31日京都深草の墨染桜寺を訪れました。

天気予報の通り雨風激しく、参加者も減るだろうなと思いながら阪急伊丹駅へ向うと、さすがに誰も来ていませんでしたが、出発時間前には13名が集合、四条河原町経由で京阪墨染駅へ！伏見桃山城から伏見稻荷の間の山沿いを散策しました。

墨染は、すみぞめ桜の名所である事から名づけられたものですが、住職の話によりますと、この寺は創建時代から日蓮宗であり、寺の縁起にも伊丹の墨染寺との関わりは一切ないとの事でした？？確かに宗派は違うが？気を取り直して隣の欣浄寺へ、こちらは伊丹の墨染寺と同じく曹洞宗で、曹洞宗の開祖(道元)の創建でした。小野小町ゆかりの寺です。

次に馬の神様(藤森神社)へ、鳥居から本殿までの長～い参道は、「駈馬神事」が行われるため、神事の行われる5月5日には多くの人が集まるそうです。

雨の中、絵馬堂で昼食をとり、明治41年に建設された陸軍第16師団司令部庁舎跡の聖母女学院を訪ねました。

レンガ造り、銅板葺2階の建物は、赤煉瓦と緑青の緑屋根が対比して美しく、また、土日は内部見学不可なのに、たまたま来ておられた理事さんがわざわざ出迎えてくれて、内部を紹介して頂きました。

その時の写真を添付します。外へ出ると雨も上がっており、傘が邪魔になるなあと呟きながら、深草北陵(12天皇陵)－真宗院－嘉祥寺－寶塔寺－石峰寺－ぬりこべ地蔵－伏見稻荷大社を廻り、伏見の旨い酒で締めくくり、楽しい一日を過ごしました。(細川 記)



川西市勝福寺古墳 万願寺他見学

木曜班屋外研修

桜が満開の4月14日(土)、木曜班の屋外研修として、伊丹市に隣接する川西市の勝福寺古墳、栄根寺廃寺および満願寺を訪ねた。

当日は川西市文化財ボランティアガイドの会員3名に案内していただいた。

勝福寺古墳

阪急川西駅から北へ1km余り、丘陵地の頂きを利用して造られた全長約40mの前方後円墳である。明治期に土取りの際に偶然発見された。出土品などから古墳が造られた時期は6世紀始め頃とされている。小型の古墳であるが格式の高い前方後円墳であり、当時、畿内では珍しい横穴式石室を採用していること、質の高い副葬品が出土している、および埴輪の特徴から、その頃北陸から畿内に入り即位した継体大王(継体天皇)に関係した豪族が造ったとされている。

現在、削り取られた墳丘の復元工事が完成しており、教育委員会の許可を得て、石室内を見学した。ライトで照らしながら羨道を一人づつ身をかがめて恐る恐る入ると、玄室は小広く、本日の参加者19名が全員入れるほどである。内部はカビ臭いこともなく、意外と風通しが良さそうであった。

栄根寺廃寺

阪急宝塚線、線路際の小高い丘に栄根寺廃寺遺跡公園がある。栄根寺は奈良時代に創建され、以来庶民の信仰を集めた。最近の発掘調査で平安後期に建立された建物の基壇が発見され、平面復元が行われている。

満願寺

神秀山満願寺は高野山真言宗、千手観音を本尊として奈良時代に創建された。源氏一門の祈願所として隆盛を誇ったが、信長、村重の戦の兵火で焼失した。17世紀中期に金堂と観音堂が再建されて現在に至っている。



満願寺山門

山門は洋風を取り入れた一風変わった様式で、明治14年に建てられた。仁王像は鎌倉末期の作で、旧多田院にあったのを明治初期に満願寺に移したものである。

山門中央アーチをくぐった通路は、まっすぐにゆるい下り坂になっていて、新緑と桜のトンネルのような奥行が感じられる。



観音堂前にて

3名のボランティアの皆さんは、研修の最後まで付き合ってください、お世話になりました。ほんとうにありがとうございました。(松田記)



石橋家住宅で紙芝居 どんぐり座公演

「桜物語」 日米友好桜寄贈 100周年

伊丹郷町館主催の中学生の夢かなえます企画 2012 で、本年は市立西中学の生徒が発案した、「石橋家住宅で紙芝居を」という企画を実現することになった。

3月24日(土)、どんぐり座の出番となり、出し物はおなじみ「頼山陽と台柿の話」と今回メインの「桜物語」である。

…今から 100 年前、時の東京市長がワシントンに桜の苗木を贈呈したが害虫の被害を受け、やむなく焼却処分に。何とか桜の苗木を届けたい…伊丹、東野村の人々が力を合わせ、苦心して台木をつくり、これを用いて病虫害に強い苗木を育て送ったところ、今度は病虫害の被害はなく、やがてみごとに開花して日米友好の架け橋になった……



柴田座長のあいさつ

畳の部屋で座布団に座って紙芝居を見るのは落ち着いていいものです。

どんぐり座の皆さんご苦労さまでした。

思い出の世界遺産 (7) 山内 富美子

「フランス モン・サン・ミッシェルの巻」

フランスには、世界遺産が現在、30以上もあります。いくつか訪れたなかで、最も印象に残り、人気が高く、奇観であることや、壮麗であること、至宝のすばらしさなどから、モン・サン・ミッシェルを選んで述べてみたいと思います。



モン・サン・ミッシェル

モン・サン・ミッシェル修道院はパリから370 km西に向かって行くと、イギリス海峡に面したところにある小島に置かれています。

この小島は、潮の干満により陸続きにもなり、孤島にもなるという不思議な島です。

モン・サン・ミッシェルは、海の上の岩山にそびえたつ修道院で、満潮時には島全体が海に囲まれ、海に浮かぶ城のように見えます

昔は潮の引いたときに、巡礼者達が陸地から島まで歩いて、キリスト教の巡礼地としてお参りをしていました。しかし、1870年に島をつなぐ道路が建設され、陸地から島までの2キロmの一本道が通ってからは、バスや、車は、ラ・ヴァンセ門という島の入り口のすぐそばまで行きますので、訪問者には、とても便利になっています。でも、その一本道のまわりに土砂がたまり、折角のモン・サン・ミッシェルの景観が失われていく恐れがあるため、新しい工事が始まっています。潮の流れをスムーズにするため橋を造り、その橋の下を水が通るように

する大工事で、今の道路が無くなり、橋が、島と陸地とを結ぶようになるとのことでした。

モン・サン・ミッシェルというのは、「聖ミカエルの山」という意味で、8世紀初頭に、ノルマンディーの大司教オベールが、大天使ミカエルから、「この地に礼拝堂を建てよ！」と、3度もお告げを受けました。そこで、この小島の上に、小さな礼拝堂を建てたのが、始まりで、その後、11世紀から、およそ500年の歳月をかけて、増改築が繰り返されました。

500年もの歳月の後、現在の修道院の形になったので、ロマネスク様式や、ゴシック様式など、教会の多様な建築様式が見られます。

モン・サン・ミッシェルは、要塞や牢獄として使用されるなど、歴史に翻弄された時代もありましたが、中世以来、ベネディクト派修道院の聖地として、多くの巡礼者が訪れています

私が訪れたとき、丁度、修学旅行で、九州から来ている日本の高校生の一団に会いました。修学旅行で、モン・サン・ミッシェルを訪れる時代になったのかと、驚きとともに、感慨を覚えました。

見学者は、島の門に入る前に見上げると、修道院の全景が目に入り、大迫力で迫ってきます。モン・サン・ミッシェルが、西洋のサプライズとか、花崗岩のジュエリーと讃えられており、その神秘的な姿には、誰でも感動します。

入り口に続く唯一のメイン・ストリート、グランド・リュの両側には、中世にもあったという旅籠やみやげ物店で、にぎわいをみせており、修道院への狭い坂道は、旅行者でいっぱいです。ここのレストランでの名物料理は、一個の卵で作る巨大なオムレツで、かつては、巡礼者にふるまわれていました。

グランド・リュ(「大きな通り」の意味、でも、道幅は両手を広げた程の細い道)の坂道を昇り切ると、サン・ピエール教会があり、ジャンヌ・

ダルクの像が、入り口を見守っています。

いよいよ、修道院の内部の見学です。ガイドの案内により、各部屋を回りますが、僧院なので、質素で、しかも、よく似た部屋ばかりなので、同じ部屋を回っているような錯覚を覚えます。ただ、ラ・メルヴェイユ(「傑作」の意味)と呼ばれる回廊を含む僧院は、13世紀に建築されたゴシック様式の傑作で、海に向かって窓が開かれ、広々としていますので、印象に残っています。



ここは、僧たちが、瞑想にふけったり、会話を交わしたりする日常生活の場でした。修道院内は、中世の身分制度に従って3層に分かれていて、修道やお祈りをする所は、上層から聖職者、真ん中の階は貴族、一番下の階は平民というようになっていました

僧院食堂は、光が射し込む広大な部屋で、僧たちは、聖書の朗読を聞きながら、沈黙を保って食事をしたところです。食堂の下の中階は、巡礼に来た貴族たちをもてなした場所です。一番下の階は、一般巡礼者が、宿泊したり、食事をしたりする場所でした。

修道院の高いテラスから下を眺めると、モンサン・ミッシェルの島を囲んでいる海水の潮の流れがよくわかりました。特に、満潮の時刻には、「馬の駆け足」と呼ばれている程の速さで潮が満ちていくので、その様子はなかなかの見ものです。時には観光バスが停まっている

場所も、大潮が満ちた場合は、海水におおわれるそうです。

モン・サン・ミッシェル修道院を取り囲んでいる城壁は、堅固で、立派なもので、城壁に沿っておよそ10個の塔があり、外部からの攻撃にも耐えるように建造されています。修道院といっても、一種のお城のような機能や外観をもっています。

フランスのパリのホテルを、朝7時に出て、夜の8時にホテルに帰りましたので、モン・サン・ミッシェルへの旅はまるまる1日かかりました。1日で750km程バスで走ったことになります。

少し慌ただしかったです。モン・サン・ミッシェルへの念願の旅は無事に終わりました。

皆さんよろしく 新入会員の抱負

折田 なお

子供のころからこの伊丹で暮らしてきましたが、自分が住んでいる町がどのような歴史を歩んできたのか知らずにいました。

ここ最近になって歴史に興味を持ち、わからないことはインターネットなどで調べて京都など有名な史跡をめぐるようになりましたが、伊丹については清酒造りが盛んだったことや有岡城址等の基本的なことしか調べずにいました。

講座を実際に受けて、自分がまだ勉強不足だと実感し、より深く歴史について知りたくなったこと、そこから得た知識を自分だけのものにするのではなく、多くの人と共有できるようにになりたいと思い、会に参加しました。

まだまだ勉強が足りませんが、どうぞよろしくお願いします。

古結 秀代

伊丹に縁あって住み始め、あっという間に三十数年が過ぎました。春は武庫川の桜、夏は地場産のトマト、秋は六甲山系の紅葉、冬は六甲お



ろしと、自然豊かで住み良い、ここが私の故郷となりました。

数年前から広報に載る「文化財ボランティア養成講座」に興味があり、機会があれば是非受けたいと思っていて今回に至りました。

最初は内容が濃く、ついていけるかと不安でいっぱいでしたが、何回か講座を受けるうち会員の皆様の熱心さに圧倒されながらもとても好感を持つことができ、なんだか楽しい気分になれました。まだまだ不安な気持ちもありますが、この楽しい気持ちを大切に末永く続けていければと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

半澤 恵子

伊丹生まれの伊丹育ち、半澤恵子と申します。大好きな歴史を学びながら、地域の皆様にお役に立つことができればと思い、入会しました

昨年からウォーキングにはまり、体力はついてきたのですが、ガイド解説につながるような「中身」がまだまだ未熟な自分を感じています

入会そうそうに参加させていただいた分科会や研修会で、興味深い濃い内容が目白押しだったので感激しています。当分はお役にたつことができそうにありませんが、少しずつ励んでいきたいと思っています。よろしくごお願い致します。



石飛 淳夫

昨年の史跡巡りに参加して、つくづく思ったことは、永年伊丹に住みながら、伊丹の歴史について自分の勉強不足を痛感しました

すばらしい史跡も沢山あるのに知らないままに時を過ごすのは、なんともったいないことか、これから多めに勉強していこうという気になり文化財ボランティアの会に入会してお世話になろうと決めました。

幸いに歴史そのものは好きなので、勉強のやり甲斐はあります。先輩諸氏のご教授により習熟した暁には、幾らかでも人様のお役に

立ちたいと思っています。

何も出来ない新参者ですので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくごお願い致します。

中川 昌保

伊丹市に居住して2年と日が浅く、伊丹については池と緑が多く、小西酒造があり、住みよい環境を感じ転入した。また伊丹史については有岡城と清酒発祥地であるという程度でした。文化財ボランティア養成講座を受講し、昔から伊丹は重要な地区であったことに感銘を受け、住んでいる伊丹に興味を湧いた。

私は73歳で一人暮らし、健康でアウトドアが大好き人間です。これを機会に皆様方と勉強して、野外活動をして頭と身体の活性化を図りたく入会しました。ボランティア活動は初めてなので、諸先輩方のご指導いただき、楽しく愉快に活動していきたいと思っており、宜しくごお願いいたします。



鈴木正臣

初めまして、市内南町在住の鈴木正臣 72 歳です。小生、京都より仕事の関係で伊丹市民になって約30年、伊丹に住んでそれ程愛着がなかったが、もともと歴史に興味があり、とくに戦国時代～徳川初期について、有岡城、城主荒木村重に関心を持ちました。だんだんこの町が好きになり、今回文化財ボランティアがあることを知り、入会しました。

これからは出来るかぎり史実を知りたく、会員皆様とも楽しく勉強していきたいと思えます

家元一郎

昭和61年伊丹に住民票を得て約27年になります。この間仕事の都合で殆ど県外での生活でした。昨年7月サラリーマン生活を終え、さてこれから何か生き甲斐をと思っていた矢先に「文化財養成講座」が目にとまり、これだと早速申し込みました。元々、歴史には興味がありましたし、何らかの形で地域とそして共通の趣味、テーマを持つ人との繋が

りを持っていたいという思いでした。

下戸の私ですが、酒造で栄えたこの伊丹の街、とくに酒蔵通りの辺りの景観は日を追って好きになってきました。また寺社、とくにお寺の雰囲気好きな私には昆陽寺を始め、散策コースにしている金剛院、猪名野神社を経て伊丹緑道に至るコースはとても気に入っています。

このボランティア活動を通じて少しでもお役に立てればと思っています。



活動記録(2月～4月)

定例会

・2/14(火)、3/13(火)、4/10(火)総会

案内ガイド

・2/4(土)A コース(阪神ろうあ団体連合会 市内) ・2/14(火)A コース(大阪シニア自然大学 大阪) ・2/22(水)AB コース(RH ハイキングクラブ 枚方) ・2/24(金)岡田家(ひょうごシニアクラブ) ・2/25(土)A コース宝塚いきいき学舎 宝塚) ・2/26(日)B コース(での会 大阪) ・3/3(土)岡田家(アピールプラン推進協議会 市内) ・3/4(日)A コース(4年会 尼崎) ・3/6(火)B コース(市老連東ブロック 市内) ・3/12(月)Aコース(五葉会 宝塚) ・3/20(火)B コース(郡山公民館 茨木) ・3/21(日)F コース(福島区食生活改善推進協議会 大阪) ・3/28(水)A コース(和会 池田) ・4/4(水)岡田家(シャンテシニア会 川西) ・4/5(木)B コース(KSC10 期れきたんクラブ 神戸) ・4/18(水)A コース(御影高校 OB 散策会 神戸)

歴史ロマン体験学習支援(スカイパーク)

編集後記

例年になく長かった冬の寒さもようやく終わり、暖かくなったかと思うとはや、初夏の日差しです。2年ぶりの役員新体制が発足し、7名の新会員を迎えて、いよいよ平成 24 年度の文化財ボランティアの活動開始です。会員の皆様は季節の変化に遅れることなく、体調管理に十分留意されて活動に励んで下さい。

(T M)

・2/4(土)紙粘土で雛人形を作ろう ・3/3(土)いろいろ体験

野外研修

・3/31(土)土日曜班 京都伏見、深草方面 ・4/14(土)木曜班 川西方面

どんぐり座公演

・3/24(土)「石橋家で紙芝居を」桜物語他

有岡城跡の清掃

・2/28(火) ・3/27(火) ・4/24(火)

今後の予定(5月～7月)

定例会

・5/8(火)、6/12(火)、7/10(火) 5、6 月度の会場は総合教育センター2階

案内ガイド

・5/16(水)郷町館(尼崎稲小学校 OB 会 尼崎) ・5/19(土)B コース(大阪ハイキング会 大阪) ・5/19(土)岡田、石橋家(鳴尾3丁目老人クラブ 西宮) ・5/24(木)F コース(松寿会 神戸) ・5/25(金)B コース(KSC10 期れきたんクラブ 神戸) ・5/27(日)C コース(京都茶華道遠州会 京都) ・6/20(水)A コース(歴史同好会 芦屋)

春季バス旅行

・5/15(火)五條、十津川方面

歴史ロマン体験学習支援(スカイパーク)

・5/26(土)冠を作ろう ・6/9(土)管玉ブレスレットを作ろう ・7/7(土)勾玉と管玉で首飾りを作ろう

どんぐり座公演

・5/20 有岡センター自治会

有岡城跡の清掃

・5/22(火) ・6/26(火) ・7/24(火) 9:30 より